



# IAMAS 図書館便り

IAMAS [イアマス] とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。



『誰のためのデザイン?』 | 『アイデアスケッチ』 | 『電話するアメリカ』

## 特集 インタラクシオンデザイン 赤羽亨

→ 自著を語る / 思い出の一冊 / 学生に薦める一冊

- 図書館を活用する
- IAMAS Library Art Space
- お知らせ



この特集では、IAMASの教員に、自著・思い出の一冊・お薦めの本などを紹介してもらいます。第10回は、赤羽亨准教授です。

## →自著を語る

### James Gibson・小林茂・鈴木宣也・赤羽亨著『アイデアスケッチ-アイデアを〈醸成〉するためのワークショップ実践ガイド』

すでに「図書館便り」vol.8 で鈴木先生が紹介されているため内容の詳細については省くが、2005年に関口先生、ギブソン先生と開始したガングプロジェクトで使用し始めたアイデアスケッチについてまとめたもの。関連するものとして、IAMAS BOOKSに「ガングブック」（2008年）、「スケッチブック」（2008年）の2冊のデータがあるので、興味があれば読んでほしい。個人的には「ガングプロジェクト」、「アドバンスドメディアスクールプロジェクト」、「アドバンスドデザインプロジェクト」、「あしたをプロトタイプするプロジェクト」、また企業との共同研究など、10年以上使い続けてきた手法を1冊の本にまとめることができ、一区切りがついた感じがしている。本書の中では、事例紹介として、実際に自分が関わるデザイン作業のプロセスにどのようにアイデアスケッチを組み込んでいるかについて記述した。工夫次第でクライアントワークでも十分に通用する手法となり得るので、ぜひ本書をベースにアイデアスケッチの発展的な活用を期待したい。



BNN新社  
／2017年

## →思い出の一冊

### クロード S. フィッシャー著『電話するアメリカ-テレフォンネットワークの社会史』

大学院で論文を書く際に、担当教員に Bibliography に加えるようにアドバイスをされて読んだ1冊。電話というテクノロジーを社会史的側面から捉え、第二次世界大戦までの北アメリカにおいて、電話がどのように導入され、人々がどのようにその技術を使用し、日常生活における社会的役割をどう進化させてきたかを記している。社会構築主義を起点にして、「消費の連結点 (consumption junction)」（原文のまま。一般的には「消費接点」と訳される）、すなわち消費者が製品を選択する時間と場所について考察をするアプローチを取っている。技術決定論の立場を取らず、末端の消費者に焦点をあてる方法論は、私が学生だった当時の UI デザイン、インタラクシオンデザインにおける“ユーザー”に焦点をあてたデザインを語る上で重要な参照点となった。電話の比較対象として自動車扱い、必要に応じて2つのテクノロジーについて、企業の刊行物、政府の公文書庫の資料、各種の統計、3つの町（アンティウォーク、パロアルト、サンラファエル）を対象にした比較研究などから浮かび上がらせる地道な研究アプローチは、十分な説得力を持っている。また、今回改めて読み返してみても、各章ごとに記された注や、補遺 (appendix) の充実した内容には驚かされた。本書を読む機会があったら、ぜひこれらにも目を通してほしい。



NTT出版  
／2000年

## →学生に薦める一冊

### D. A. ノーマン著『誰のためのデザイン? - 認知科学者のデザイン原論 増補・改訂版』

1990年に出版された『誰のためのデザイン?』(原書*The Design of Everyday Things* は1988年出版)の増補・改訂版である本書は、25年の歳月を経て出版された。本書では、初版で扱われた実例の更新や、その後のノーマンの著書で提示した新しい概念との統合が試みられている。その中でも最も象徴的な改訂は、何かと批判が多かった“アフオーダンス”に関わる部分を、『複雑さと共に暮らす-デザインの挑戦』(2011年)で提示された“シングニファイア”という新しい概念で補強し、説明し直していることであろう。初版は、私が学生だった当時(出版からすでに5年以上後)、デザイン学生の必読書リストの筆頭にあげられていた。特に私が専攻した“インタラクショナルデザイン”の分野では、その本で語られていた事柄は既にコンセンサスとなっており、それをベースにしつつ、「どのように現実のデザインに適用させるか」ということが、重要なデザインイシューであった。また同様に、初版の出版以降、90年代から2000年代に台頭した“ユーザビリティ”、“インタラクショナルデザイン”、“デザイン思考”、“人間中心デザイン”などのデザインに関する新しい概念も、初版に少なからぬ影響を受けて確立されたと言ってよいであろう。増補・改訂版では、これらの新しい概念について積極的に取り込まれており、その点においては順当なアップデートであるといえる。しかしながら、本書の初版から引き継がれ、語られている様々な概念の重要度には変わりがない。“三つの処理レベル”(内省的、行動的、本能的)、“四種類の制約”(物理的、文化的、意味的、論理的)、“タスク分析”、“スキューモーフリック”などの概念は、その後に台頭した“サービスデザイン”、“UXデザイン”、また、今後出現する新たなデザインエリアを読み解くために重要な役割を果たすことに変わりはない。



新曜社  
/2015年

## 図書館を活用する その4 先日返した本のことは・・・わかりません

図書館は、「図書館の自由に関する宣言」を掲げている。IAMASの図書館にも、この宣言を掲示している。この宣言は、有川浩が『図書館戦争』を執筆するきっかけとなったものとして知っている人も多いだろう。

「図書館の自由に関する宣言」は、1954年に採択された以下の4つの原則からなるもので(1979年に改訂)、国民の知る自由を保障する図書館の使命が示されている。

- 第1 図書館は資料収集の自由を有する
- 第2 図書館は資料提供の自由を有する
- 第3 図書館は利用者の秘密を守る
- 第4 図書館はすべての検閲に反対する

図書館で以前借りたことがあるもののタイトルが思い出せない本を、必要に迫られてもう一度確認したいと思ったことは誰もあるはずだ。しかし、司書に尋ねても教えてくれないだろう。いったん返却されると、本のデータは削除されますと言われる。読書の記録は利用者のプライバシーに属するものなので、図書館は利用者の読書履歴を持たないためだ。これは、宣言の第3にある「利用者の秘密」を守ることの実践である。

図書館から借りた本は、利用者自身で記録しておこう。タイトル、著者名、出版社、出版年など、後日その本を探すことになっても特定できる情報を記録することで、すぐに見つけ出すことができる。その資料のリストは、同時に、論文作成時の参考文献のリストにもなる。

# IAMAS Library Art Space

この夏から、図書館の窓口カウンター横にある部屋は、IAMAS Library Art Space（イアマス・ライブラリー・アート・スペース）という名称で運用が始まっています。IAMASにおける研究や活動を紹介する空間として、展示やトークイベントが計画されています。現在は、メディア表現学研究プロジェクトが主催する「再生される肌理Ⅳ」が開催中です。これは、4年間に渡ってすすめられた「HDⅡ高精細映像技術を用いた表現研究プロジェクト」で制作された作品及びメンバーによる近作の展覧会です（10月19日終了）。今後のスケジュールはWebサイトで確認してください。



## お知らせ

### →資料展示「スマホの10年とソーシャルメディア」 2018.9~10

iPhoneが日本で発売されたのが2008年7月。あれから10年がたち、スマートフォンの普及は、TwitterやFacebook等のSNSをはじめとするソーシャルメディアの利用を増大させ、私たちの生活に大きな変化をもたらしました。今回の資料展示では、ソーシャルメディアと人とのかかわりを扱った図書を中心に展示しています。

### →もうすぐ200冊！「今週の一冊」

2014年5月にはじまった小林昌廣先生による「今週の一冊」（毎週木曜日、18時30分～）も、今年の8月ですでに186冊を数え、参加者ものべ1,400人を超えました。まもなく200冊をむかえます。紹介されたすべての本は、図書館内で読むことができます。

「今週の一冊」はYouTubeでも同時配信しています。来館できなくても、お手元のスマートフォンなどで視聴できますので、図書館のWebサイトからアクセスください。

【今週の一冊】毎週木曜日 18時30分~18時45分 IAMAS附属図書館



■開館時間 月~木 10:15-19:00 / 金 11:15-20:00

■休館日 土曜日・日曜日・祝日、年末年始、臨時休館日（蔵書点検など）

#### ■貸出

学生 20冊・3週間以内（10月1日～）  
卒業生 5冊（図書のみ）・2週間以内  
学外者 2冊（図書のみ）・2週間以内

#### <学外の方の利用資格>

- ・岐阜県在住・在勤の高校生以上の方
  - ・東海地区大学図書館協議会加盟大学の学生
- ※自習目的のご利用はお断りいたします。



情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 附属図書館 編集・発行

〒503-0807 岐阜県大垣市今宿6丁目52番地18 ワークショップ24 1F

TEL・FAX: 0584-75-6803 URL: <http://www.iamas.ac.jp/lib/>